

## 郷土摂津

第70号

平成16年2月1日

## いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課  
〒566 - 8555 摂津市三島一丁目1 - 1

(06)6383 - 1111 (072)638 - 0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

**わらすぐり** わらのシブ・ハカマを取るわらすぐりは千歯扱きの転用が多い。長さ20cmの鉄歯が1.5cm間隔で21本並びます。



**ヨコツチ** 直径12.5cm。太い部分の高さ15cm。柄も入れて全高27cm。



**わら打ち台** 直径19.5cm。高さ18cm。



**縄ない機** 奥の2つの口からわらを入れ、回転しながら巻き取ります。

## 農具 春夏 第11回

### から見た 秋冬 わら打ち

秋の取り入れの一連の仕事が終わるとわら仕事の季節となります。納屋はわら打ち、縄ない、むしろ織りの作業場でした。「今日はどこそこの納屋で」と年寄りたちは集まって縄ないをしました。綿の木（綿の実をとった残り）を焚いて暖をとって、世間話に花が咲きました。わらはシブ取りをして、ヨコツチで打って柔らかくします。縄ない用のわらは、全体を打ちます。全体を打ないと強度が弱くなります。むしろ用のわらは根元と先の方をよく打ち真ん中は打たないとの事です。むしろを織るには大量の縄が必要で5～6人で縄ないをしました。

## 2月のふるさと摂津講座

### 鳥養の歴史散策

- 講師** ふるさと摂津案内人  
ふるさと摂津案内人養成講座受講生
- と き** 平成16年2月18日（水）  
午後1時30分～4時（予定）
- 集合場所** モノレール南摂津駅改札口
- 参加費** 無料
- 定員** 60名
- 講座は申し込み不要です。当日直接集合場所へご来場ください。

### 鳥養の歴史散策コース

モノレール南摂津駅 鳥飼大橋 三本松天神社跡 願正寺 鳥養の渡し跡 千本つきの碑  
鳥養牧跡 藤森神社 光蓮寺と弥生土器  
力士墓（糸櫻） 輪道 砂川捨丸の銅像 南摂津駅（解散）

ふるさと摂津案内人養成講座受講生は現在、鳥養の歴史を学習中です。学習の成果を歴史散策で発表します。お楽しみに。



## 石碑・顕彰札の紹介

## 摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市一津屋2丁目2番地先

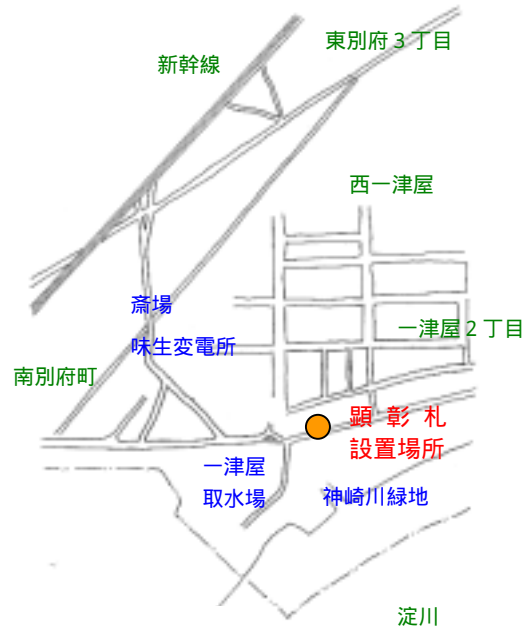
【設置年度】平成9年度改修

### 神崎川分岐点跡

約1200年前、都が淀川上流の京都盆地に移ったことで、淀川は外国や国内の他地域と都を結ぶ幹線として重要なものとなります。しかしその反面、淀川がもたらす水害が脅威となり、古代から水との闘いが強いられてきました。

宝暦三年(772)および延暦三年(784)の大洪水の後、延暦四年正月に桓武天皇は「使を遣わして摂津国神下(かみしも)・梓江(あずさえ)・鯨生野(あじふの)を掘りて、三国川に通じせむ」という淀川の分流工事内容の記載が『続日本紀』に見られます。淀川と三国川(神崎川)を直結する河道の開削です。江口(大阪市東淀川区)付近で淀川から分れ、北流して別府の西を通り、味舌浜で安威川に合流する長さ1.5km程度のものであったと考えられています。しかし淀川の治水面からこの工事の結果を見れば、残念ながら同年9月には早くも大洪水があり、新水路の完成も効果がなかったようです。

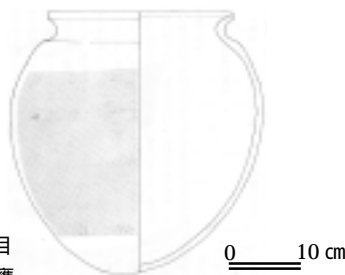
この河道は、明治11年に付け替え工事をして、現在のように直川化されるまで使われました。



## 第34回 埋もれた摂津市の歴史

### 摂津市から須恵器が出土(6)

昭和48年5月に千里丘東1丁目の地区(乙ノ辻)公民館建設工事が行われ、この時の工事で須恵器の大甕が見つかりました。土木工事中の発見で詳細は分かりませんが、土層断面略図が残され、摂津市史・史料編(一)に掲載されています。この図面によると厚さ60cm程の白色粘土層が地山のベースを形成し、この粘土層を切る形で灰黒色砂質土が掘り込まれ、地表下111cmの地点から須恵器の大甕が見つかりました。その他、排土中からは、土師器破片、瓦器破片、磁器片なども発見されたようです。(つづく)



千里丘東1丁目  
出土須恵器大甕